学生の海外における活動支援

AY 2023
農芸化学専攻・農芸化学科

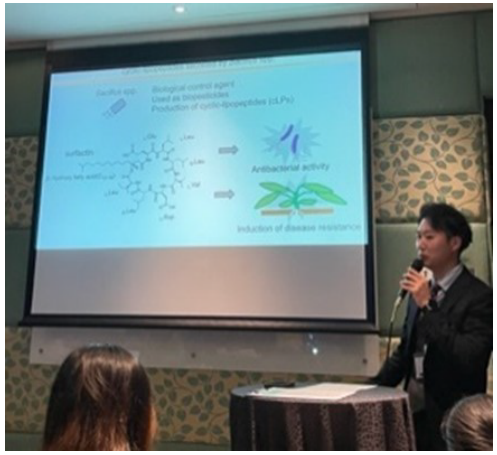
東京農業大学
農芸化学科

活動内容：国際学会での発表

学会参加を通して実感した農芸化学の強み

伊藤 光次朗（博士後期課程１年）

渡航先：フィリピン・マニラ
ISSAAS International Scientific Congress and General Meeting 2023 (2023/11/8–11)



フィリピンで開催された、東南アジア国際農学会（ISSAAS）の学術会議に出席し、口頭発表を行いました。私の研究テーマは、植物病害抑制効果を示す有用微生物について、病害抑制に関与する生理活性物質を特定し、その作用機構を解明することです。今回は、バナナを宿主植物とした研究成果を発表しました。研究対象の生理活性物質は植物の免疫（病害抵抗性誘導）を活性化する作用を示し、それはバナナに対しても同様の効果を示すことを報告しました。

開催国が世界屈指のバナナ生産国であるフィリピンということもあり、私の他にもバナナに関する発表が多く、活発な議論が展開されました。

将来、研究者になりたいと考えている私は、自身の発表へ寄せられた質問や意見、他の研究者による発表を通じて、改めて自分の専門分野について考えました。私が専門とする農芸化学は生物や生命を化学で理解することが特長となります。もちろん、生物学的な視点に特化した専門性も重要ですが、もう一歩掘り下げて理解するには化学的なアプローチが必要であると再認識しました。

今後は、自分の強みとなる「農芸化学」を意識して、他の様々な専門分野の研究者と協調して、世界で活躍できる研究者を目指したいと思います。